

とぎつちょう うちどく すいしん  
時津町は「家読」を推進しています

# たまには テレビをけして

ちゅうがくねん む ねん あきごう  
中学年向け 2024年 秋号



## うちどく 家読とは

かぞく みんなで好きな本を読んで、読んだ本  
について話す。これが「うちどく（家読）」  
です。むずかしいルールはいりません。  
かぞく みんなでルールを決めてはじめてみま  
しょう。

かぞく で同じ本を読みあったり、おとうさん  
やおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい  
時間を過ごしましょう。



「そうのたまごのたまごやき」  
寺村 輝夫/作 和歌山 静子/絵  
(理論社)

おう 王さまがーばんすきなものは、たまご。  
「たまごやきがーばんうまいよ。あまくって  
ふーわりした、あったかいのがいいね。」で  
すって。

おう 王さまのうちに、赤ちゃんがうまれました。  
すっかりよろこんだ王さまが、おいわい  
のごちそうにえらんだのは、もちろん「たま  
ごやき」。国じゅうの人にちそうするため  
に考えたのは、そうのたまごを見つけて  
くること！



「ともに生きる 山のツキノワグマ」  
前川 貴行/写真・文（あかね書房）

どうぶつしゃ しんが まえかわたかゆき  
動物写真家の前川貴行さんが、ツキノワグマを  
つづ 続けた写真絵本です。

いま にほん やせいどうぶつ しがいち すがた  
今、日本では、野生動物が市街地に姿をあらわ  
し、人のくらしをおびやかしています。その代表的  
な動物がツキノワグマ。人と動物が共存するって、  
どういふことだろう？ツキノワグマの力強さとおく  
びょうさなど、素顔をおいかけながら、問題に向き  
あった本。



## 「魔女がやってきた！」

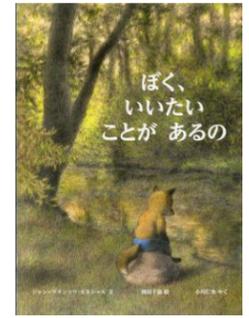
マーガレット・マーヒー/作 尾崎 愛子/訳  
はた こうしろう/絵（徳間書店）

まじょ 魔女って、どんな存在かな？この本は、  
まじょ 魔女がでてくる短いお話を、5つ集めた  
ものがたりしゅう 物語集です。ケーキをほしがったり、王さ  
まを棚にとじこめちゃったり、男の子に影を  
あずけたり…色々な魔女が登場します！  
たの 楽しくて、ちょっぴりこわくて、秋の夜に  
ぴったりの本。



「心をひらいて、音をかんじて」  
耳のきこえない打楽器奏者エヴェリン・グレニー」  
シャノン・ストッカー/文 デヴォン・ホルズワース/絵  
中野 怜奈/訳（光村教育図書）

おんがく おんがくがとても好きな女の子。ピ  
アノやクラリネットを奏することも得意でした。  
しかし、8歳の頃耳に痛みを感じ、12歳の頃  
にはほとんど耳が聞こえなくなってしまう。お  
いしゅ 医者さんにも音楽を続けることはむずかしいと言  
われましたが、エヴェリンは音楽をあきらめよう  
とはせず、ろう学校ではなく地元の公立中学校に  
かよ 通いました。そこで打楽器に出会ったエヴェリン  
は、自分の信じる道をつきすすんでいきます。



「ぼく、いいたいことがあるの」  
ジャン＝フランソワ・セネシャル/文  
岡田 千晶/絵 小川 仁央/やく（評論社）

たいせつ 大切なおばあちゃんに、もう会えなくな  
ってしまったキツネの男の子。あたたかく  
て、たのしくて、ステキな思い出がたくさん  
あるのに。おばあちゃんに、伝えたいことは  
…「だいすきだよ」。身近にいる大切な人に、  
ふだん言えない気持ちを伝えたい絵本。



「こぎつねルーファスのぼうけん」  
アリソン・アトリー/作 石井 桃子/訳  
(岩波書店)

こぎつねのルーファスは、赤ぎつね。おかあ  
さんもおとうさんもなく、ひとりぼっちで森に  
すんでいました。ある夕方、ハリエニシダの中  
で泣いているところを、アナグマおくさんがみ  
つけてくれ、養子になることになりました。

ルーファスはアナグマの兄弟が2匹もでき  
たの 楽しく暮らしていたのですが、さあ大変。ル  
ーファスには、わるいきつねのおじさんがいた  
のです！